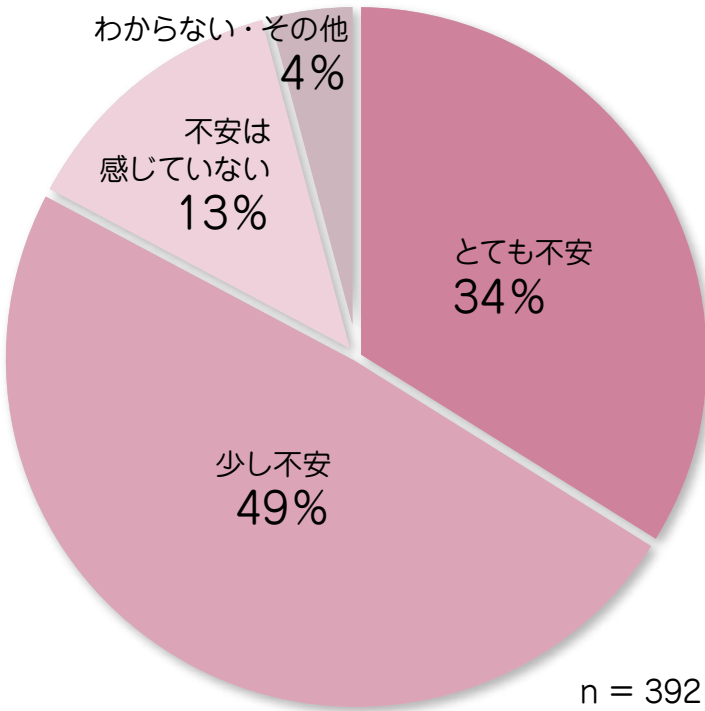


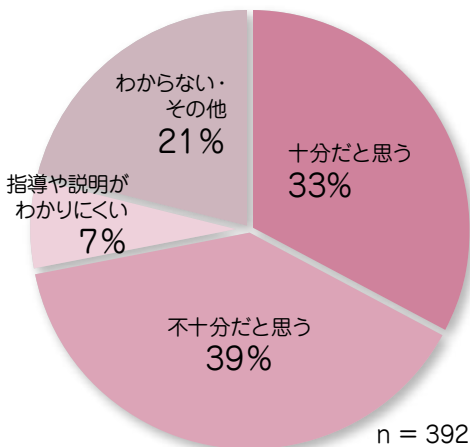
Q. 腎症に対して、不安を感じますか？



今回のアンケートで、患者さんの96%が糖尿病の合併症として腎症のリスクがあることをご存じでした。また、患者さんの8割以上が、腎症に対して不安を抱えていることがわかりました。これまで腎症のリスクを指摘されたことのない患者さんでも、8割が不安を感じており、腎症は糖尿病患者さんの大きな心配事の一つであることが明らかになりました。

そこで、腎症の早期発見のために注意している検査項目を尋ねたところ、「尿蛋白」

Q. 腎症について、医師や医療スタッフからの指導・説明は十分だと思いますか？



と答えた人が最も多く6割でしたが、より早期に腎障害を検出できる「尿アルブミン」を選んだ人は51%と、「血糖値」の53%よりも若干少ない結果でした。「推算糸球体濾過率(eGFR)」については2割にとどまりました。特に尿アルブミンについては、3割の患者さんが何なのか「知らない」「わからない」と回答しています。

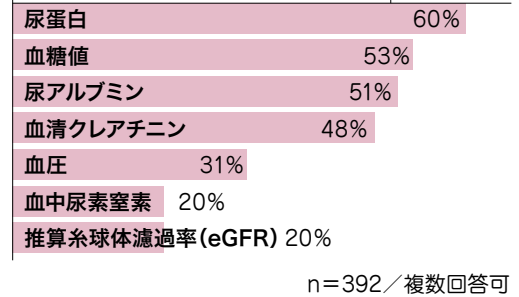
また尿検査の頻度について質問したところ、腎症と診断されたことのない患者さんの67%が、腎症の早期発見のために定期的に尿検査を受けたいと回答。尿検査への期待がうかがえる結果となりました。

さらに別の質問で、医師やスタッフから

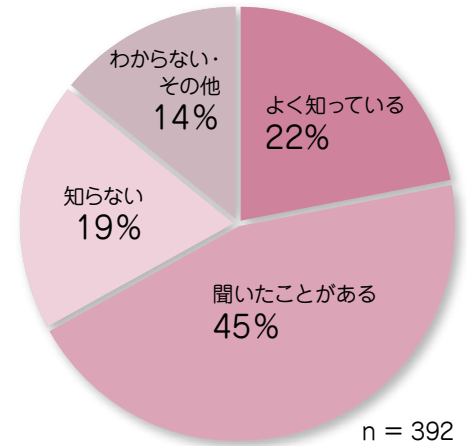
患者さんの自由記述より

- 腎症のリスクについては、発症時の教育入院で聞いただけ
- 患者が多くて説明など無い
- 指導・説明については、規定の血液検査の結果からの指導・説明なので、その範囲内という意味では十分なのかと
- 兆候がないのでとくに指導はない
- 尿アルブミンについては、糖尿病と腎臓病に深く関連があるのは知っているが、詳しくはわからない
- 検査はeGFRと蛋白判定は毎回、尿アルブミンはたまにやってくれる。これで十分？
- 尿検査は2月に一回受けてます。それで十分だと思います
- 外来で他の患者さんが定期的な尿検査で、毎回説明を受けてついに透析導入になっていたが、適切なタイミングで導入できたと思えるべきか…
- 尿検査は毎月行っているがどこまで意味があるのか不明
- どれくらいの頻度が適切なかわからない
- 今のコントロールなら腎症にはならないと言われるので先生に従っているだけ

Q. 腎症の早期発見のために注意している検査項目は？



Q. 「尿アルブミン」とは何かご存知ですか？



の腎症に関する指導や説明が「不十分」「わかりにくい」と感じている人が46%と、「十分だ」と答えた33%に比べて多かったことから、今、腎症やその検査に関して患者さんへのわかりやすい情報提供が求められているのかもしれませんが。患者さんの意識向上は、患者さんの不安を低減するとともに腎症の早期発見にもつながるのではないのでしょうか。